

安全データシート

1. 製品及び会社情報

製品名	ウロストン
製品コード	URT-X
製品概要	牛尿路結石溶解排泄促進
供給者	
会社名	科研製薬株式会社
住所	東京都文京区本駒込二丁目28番8号
電話番号	03-5977-5037
緊急時の電話番号	03-5977-5037
FAX 番号	03-5977-5136
メールアドレス	ag_rd@kaken.co.jp
推奨用途及び使用上の制限	動物用医薬品、動物用医薬品内容以外の使用は不可

2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性	区分に該当しない
健康に対する有害性	区分に該当しない
環境に対する有害性	区分に該当しない

ラベル要素

絵表示又はシンボル	なし
注意喚起語	なし
危険有害性情報	なし
注意書き	【一般】 医学的な助言が必要な時には、製品容器やラベルを持っていくこと。 (P101) 子供の手の届かないところに置くこと。(P102) 使用前にラベルをよく読むこと。(P103) 【安全対策】 区分に該当しない 【応急措置】 区分に該当しない 【保管】 区分に該当しない

【廃棄】

区分に該当しない

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物
一般名	ウロストン
成分及び含有量	

化学名又は一般名	濃度又は濃度範囲(wt%)	CAS番号	化審法番号/安衛法番号
ウラジログシエキス	50.0	—	—/—
その他	50.0	—	—/—

4. 応急措置

吸入した場合	<p>空気の新鮮な場所に移動させ安静にし、直ちに医師の診察を受けること。</p> <p>呼吸が止まっている場合は、衣類をゆるめ呼吸気道を確保した上で人工呼吸を行うこと。</p> <p>呼吸が困難な場合は酸素吸入を行うこと。</p> <p>呼吸をしながら嘔吐がある場合は頭を横向きにする。</p>
皮膚に付着した場合	<p>汚染した衣服を脱ぎ、多量の水及び石鹼で洗い流すこと。水泡、痛みなどの症状が出た場合には、医師の診察を受けること。</p>
眼に入った場合	<p>清浄な水で数分間注意深く洗浄し、直ちに医師の診察を受けること。</p> <p>洗眼の際、まぶたを指でよく開いて、眼球、まぶたの隅々まで水がよくいきわたるように洗浄すること。</p> <p>コンタクトレンズを使用している場合は、固着していない限り、取り除いて洗浄を続けること。</p>
飲み込んだ場合	<p>清浄な水でよく口の中を洗浄し、直ちに医師の診察を受けること。</p>

5. 火災時の措置

消火剤	水、粉末、泡、二酸化炭素、乾燥砂など適切な消火剤を用いること。
使ってはならない消火剤	データなし
火災時の特定の危険有害性	データなし
特有の消火方法	<p>消火作業は、可能な限り風上から行うこと。</p> <p>周辺火災の場合に移動可能な容器は、速やかに安全な場所に移動すること。</p>
消火を行う者の保護	消火作業では、適切な保護具(手袋、眼鏡、マスク等)を着用すること。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具および緊急時措置	作業者は適切な保護具(『8. ばく露防止及び保護措置』の項を参照)を着用すること。
環境に対する注意事項	漏出物を直接に河川や下水に流してはならない。
封じ込め及び浄化の方法及び機材	漏出したものをすくいとり、または掃き集めて紙袋またはドラム缶等に回収すること。

7. 取扱い及び保管上の注意

取扱い	技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の設備対策を行い、保護具を着用すること。
	安全取扱注意事項	取扱い後は手、顔等をよく洗い、うがいをする。
保管	保管条件	直射日光、高温及び多湿を避けること。
	容器包装材料	吸湿性があるため、開封後は気密容器又は気密状態で保管すること。誤用を避け、品質を保持するため、他の容器に入れかえないこと。

8. ばく露防止及び保護措置

管理濃度	設定されていない。	
許容濃度	設定されていない。	
設備対策	取扱う際には局所排気装置を設けること。	
保護具	呼吸用保護具	防じんマスクを着用すること。
	手の保護具	保護手袋(ゴム手袋)を着用すること。
	眼の保護具	保護眼鏡を着用すること。
	皮膚及び身体の保護具	保護服、作業服、帽子を着用すること。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	粉末
色	褐色～黒褐色
臭い	特異な臭い
融点/凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	データなし
爆発限界及び爆発上限界/可燃限界	データなし
引火点	データなし
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	データなし
動粘性率	データなし
溶解度	データなし
n-オクタノール/水分配係数	データなし

蒸気圧 データなし
 密度及び又は相対密度 データなし

10. 安定性及び反応性

反応性 通常の取扱い条件においては危険な反応はない。
 化学的安定性 通常取扱い条件においては安定である。
 危険有害反応可能性 データなし
 避けるべき条件 データなし
 混触危険物質 データなし
 危険有害な分解生成物 データなし

11. 有害性情報

急性毒性 経口 区分外 急性毒性推定値 ATE_{mix} = 14,072mg/kg より、「区分外」とした。ただし、混合物の 1.0%は急性毒性が未知の成分である。

12. 環境影響情報

分類できない データなし

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物 内容物はなるべく使い切ること。
 国、都道府県、市町村の規則に従うこと。
 汚染容器及び包装 空容器及び空包装を処分する場合は、内容物を完全に除去すること。
 国、都道府県、市町村の規則に従うこと。

14. 輸送上の注意

国際規制 海上規制情報 IMOの規定に従うこと。
 航空規制情報 ICAO・IATAの規定に従うこと。
 国連分類 国連勧告の定義上、危険物に該当しない。
 国内規制 陸上規制情報 道路法の規定に従うこと。
 海上規制情報 船舶安全法の規定に従うこと。
 航空規制情報 航空法の規定に従うこと。
 輸送の特別の安全対策 運搬に際しては、容器に漏れのないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷崩れの防止を確実にすること。
 容器の破損等で漏洩があった時は、側溝、河川あるいは湖沼への流出を防ぐ措置を講ずることが望ましい。

15. 適用法令

医薬品、医療機器等の品質、有効性及び承認番号:26 動薬第1185号
安全性の確保等に関する法律

16. その他の情報

版番号 第2版

参考文献

1. 化学品の分類および表示に関する世界調和システム(GHS) 改訂7版(2017年)
環境省ホームページ
2. NITE 化学物質総合情報提供システム(NITE-CHRIP) (独)製品評価技術基盤機構ホームページ
3. 職場のあんぜんサイト 厚生労働省
4. 国連分類コード 2019年 国連欧州経済委員会(UNECE)ホームページ
https://www.unece.org/trans/danger/publi/unrec/rev21/21files_e.html
5. 混合物のSDS 作り方研修テキスト 中央労働災害防止協会
6. [ERG2016版]緊急時応急措置指針 (2017年 (一社)日本化学工業協会)
7. GHSに基づく化学品の危険有害性情報の伝達方法ーラベル, 作業場内の表示及び安全データシート(SDS)
(JIS Z 7253:2019) 日本規格協会(令和元年5月25日改正)
8. GHSに基づく化学品の分類方法(JIS Z 7252:2019) 日本規格協会(令和元年5月25日改正)

【記載内容の取り扱い】

- 1) 本データシートは、化学製品の工業的な一般的な取扱いに際しての安全な取扱いについて最新の情報を集めたものであるが、万全ではない。
- 2) 新たな情報を入手した場合は追加又は訂正されることがある。
- 3) 化学製品に他の物質を混合したり、特殊な条件で使用したりするときは、ユーザーが安全性の評価を実施すること。
- 4) 本データシートは保証値ではない。